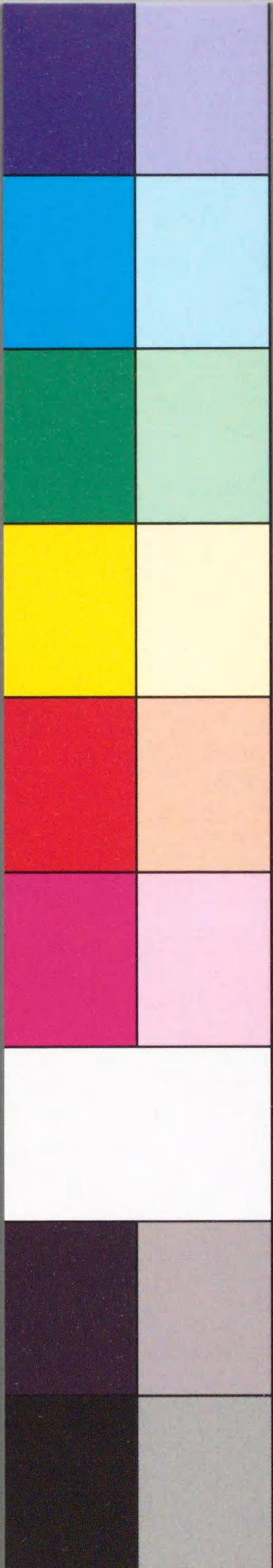




inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

米禮居



米禮居

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), arranged in four vertical columns from right to left. The characters are highly stylized and difficult to read precisely, but appear to be a form of calligraphy.

Handwritten signature or name in cursive style, located to the left of the main text columns.

Handwritten signature or name in cursive style, located below the main text columns.

A red square seal impression, likely a collector's or publisher's mark, located below the handwritten text.

1200501795568

米隱居



Handwritten Japanese text in cursive style, arranged in four vertical columns. The characters are highly stylized and difficult to decipher precisely, but appear to be a form of calligraphy or a specific dialect.

Handwritten text in a cursive style, possibly a signature or a note.

Handwritten text in a cursive style, possibly a signature or a note.



鬼桃太郎

むろしく翁を山へ柴刈に
媪を洗濯の河よて拾

ひー桃實の裏より

生も出でたる桃太郎

猿雉子犬を引率して

この鬼ヶ島よ攻來り、

累世の珍寶を分

捕ふし勝矜らせて



還せし事これ島末

代までれ耻辱あり

あをれ願はくは武勇

勝まざる鬼のあれうし、

其力を藉てありともこれ

遺恨霽さむやと時の王鬼

島中よ觸を下し誰よても

あれ日本を征伐し桃太郎奴が

若衆首と分捕らまざる珍寶

を携へ還らむものも此島の



王とふすべりとありけきむ血氣は逸る
 若鬼輩ひらくと額の角を蠢く
 我功名せむと想えざるそあ
 けきどもいづれも桃太郎
 が技柄は懲り我と名乗出
 づるものをあらざりけり
 茲に阿修羅河の畔よ
 世を忍びて侘く住
 みあせる夫婦の鬼あり
 けり



色と鬼介
 鳥の城門は
 衛司よてあ
 りけるが桃
 太郎攻入の
 砌敢あくも
 鐵の門扉を打摧けれ敵軍
 乱入に及びし條其身の懈怠は因るものあり
 とて斜あらば王鬼の勘氣を蒙り官を剥けれ世に疎れ
 今を漁人とあつて餘命を送るといへども何日は身の罪を償うて再び



世よ出でむことを念懸け、

子鬼の角

此束の間も

忘るゝ間ぞあくりける、さる

ほどよ此觸を聞く嬉しき茨木

童子が斷落されし我片腕をり見

らむ心地して、此時ありと心はうりを

逸きども嚮ふ城門の



敗戦よ桃太郎と巨合

えせ、五十貫目の鐵棒もて、

右の角を根元より摧折れと

る創の今は疼むこと頻りよして

不治の疾を得たりけまむ合戦あ

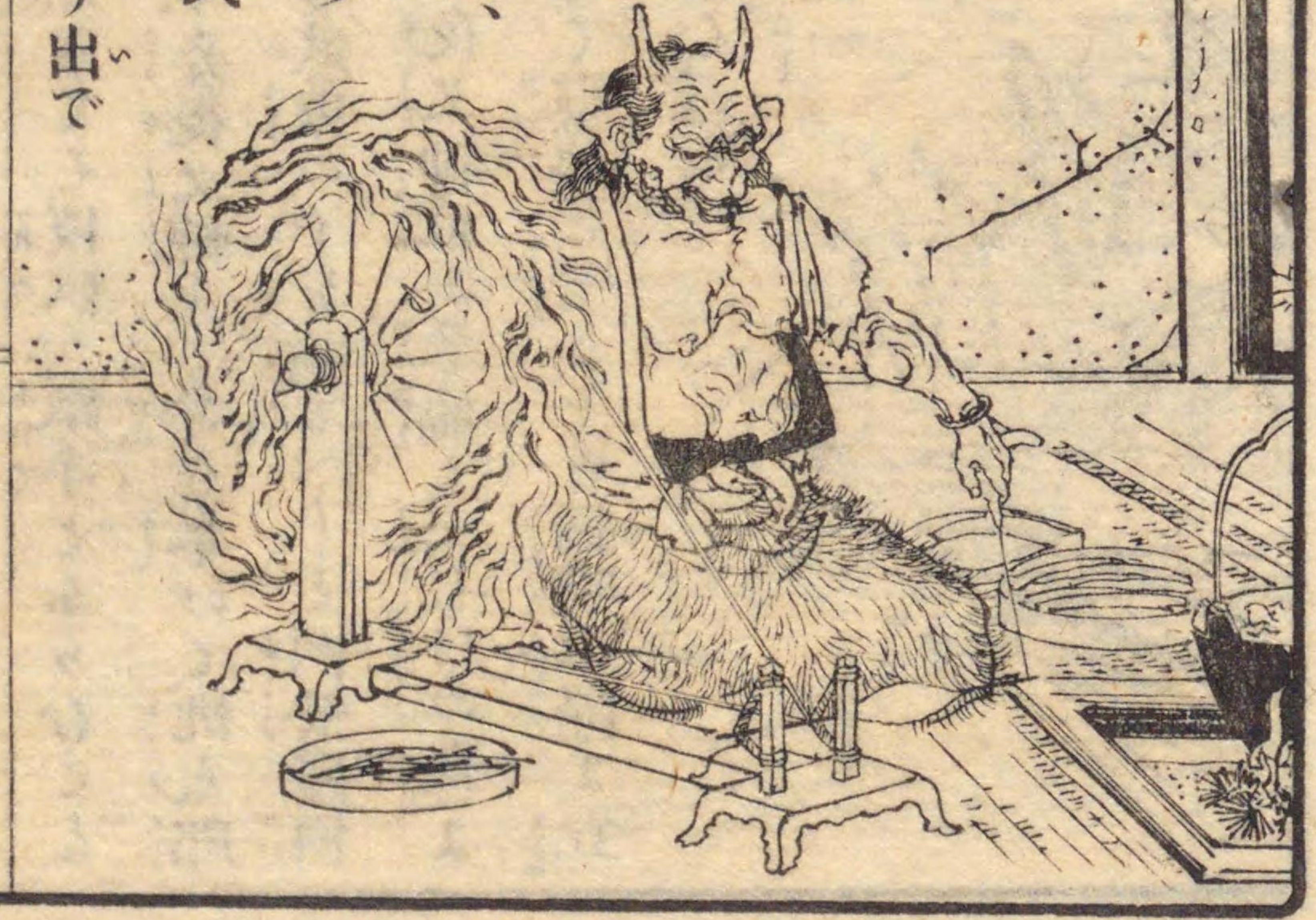
むと思ひも寄らばぐる時子ご

よあらむと頻りよ妻ある鬼を罵りぬ、

されむ妻此言ひけるを傳聞く日本の

桃太郎と河よ流まゝ桃より生れて武

勇拔群れ小兒あり尋常ある鬼胎より出で





かむ鬼兒よて、彼奴か敵手とあらむこと
 覺束あし、妾夜叉神よ一命を奉げて、桃太郎
 二倍ふる武勇の子を禱るべしと、阿修羅河
 の岸ある夜叉神社よ參籠し三七日の夜よ
 して始めて靈夢を蒙り、その拂曉水際よ立
 出で、見れむいと

大きある苦桃一

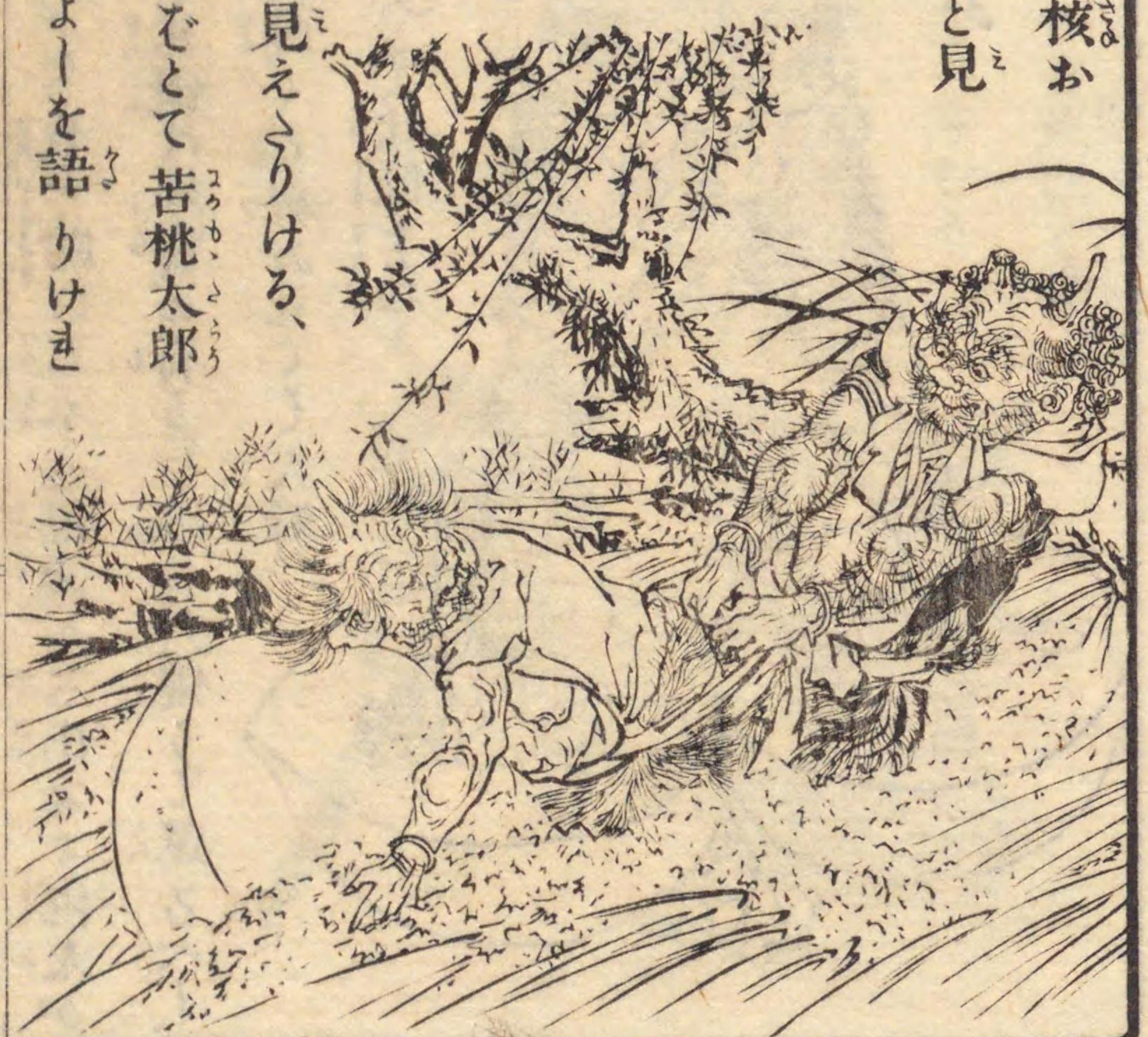
顆浮波々々と浮來りぬ、扱と嬉しく
 抱還れむ待構へとる夫の喜悅とと
 ふる方あり、



割きて見まを果せろくな、核お
 のづらら飛で坐上に躍ると見
 えーが、忽焉其長一丈五

尺の青鬼と變じ紅血れ
 ごとき口を開き爛々
 る火焰を吐て轟と立
 る其風情鬼の眼よさへ

恐ろしくも、ま物凄くぞ見えたりける、
 苦桃の裏より生まれとまむとて、苦桃太郎
 と名乗らせぬ、扱夫婦所志よを語りけま



む苦桃大い喜び易き事くな、我一跨に日本へ推渡り三指よて桃太が

そつ首引抜き其國に珍寶の有らむ限り引攪うて還るべし

これより出陣くと勇み立てむ夫婦

のいふやう此條王鬼よ



届出でずして我儘よ出立せむ或ひは功

も功とあらずして却て咎のあらむも

測り難し夫婦を罪を負ふ身の

拜謁慙とざれむとて苦桃太郎

單身して王城に到らぬ桃太郎

征伐の義を言上りけむ、王鬼火焔

を吐きて悦ぶと限りなく八角は削成

して二百八十八箇の銀星打たる鐵棒を

賜ひ爾之を以て桃奴が腰骨微塵に碎けよとありけむ

苦桃太郎冷笑ひ桃太郎風情の小童十人二十人風を拈るよりあな易きに



安ぞ武器などの入り候べき

假初よもかゝる物を賜ふ

事煩る某が武勇を氣遣

ひとまふよ似たり無礼

え御免候へこれ御覽せ

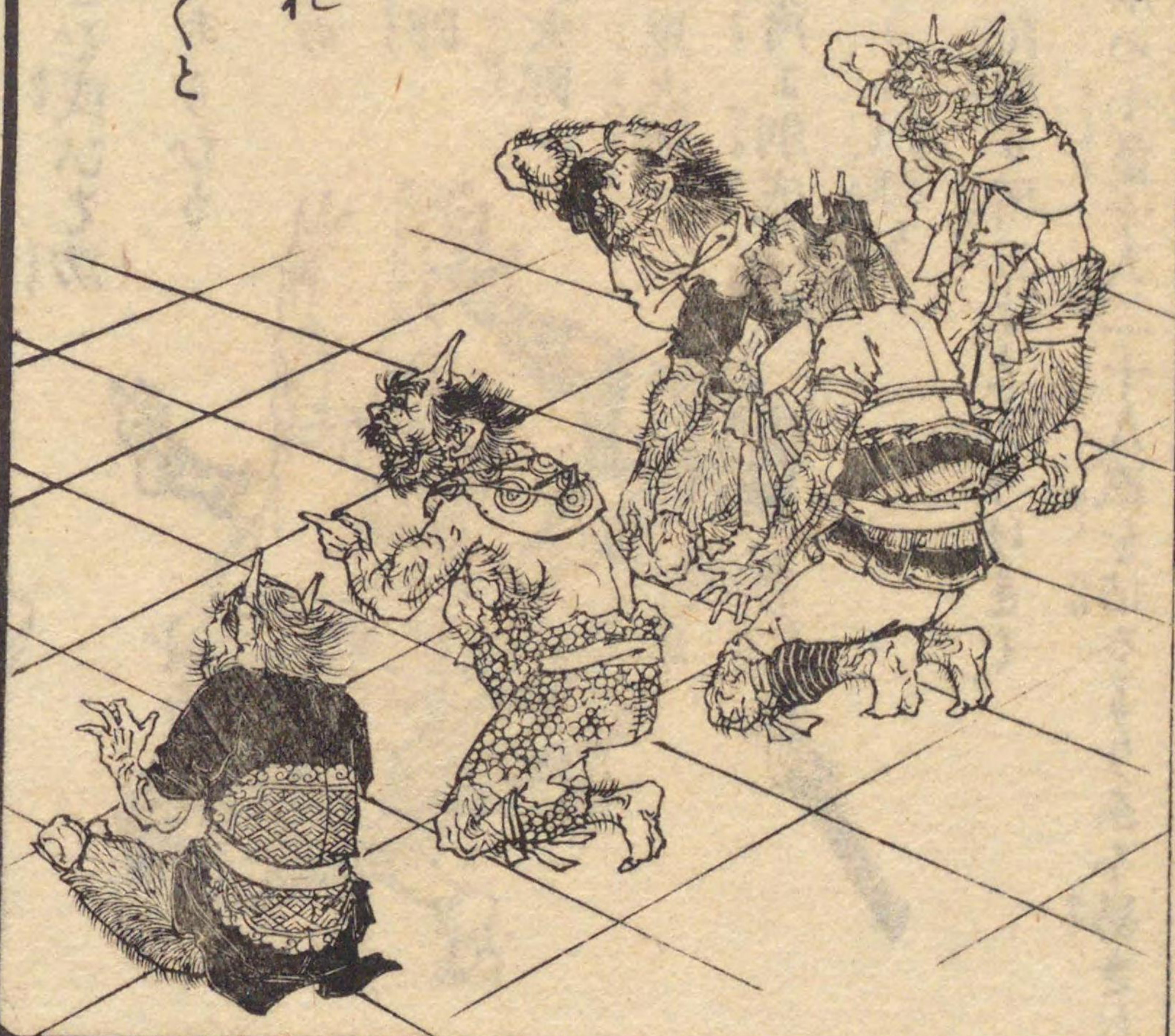
よ方々と側ある鐵の圓柱

を小指もてゆらくと盪揺う

せば満座齊しく色を失ひやれ

苦桃枝柄と見えたり止めよくと

震慄さけり、



王鬼近く苦桃を

招きてかかると爾

が武勇を以て

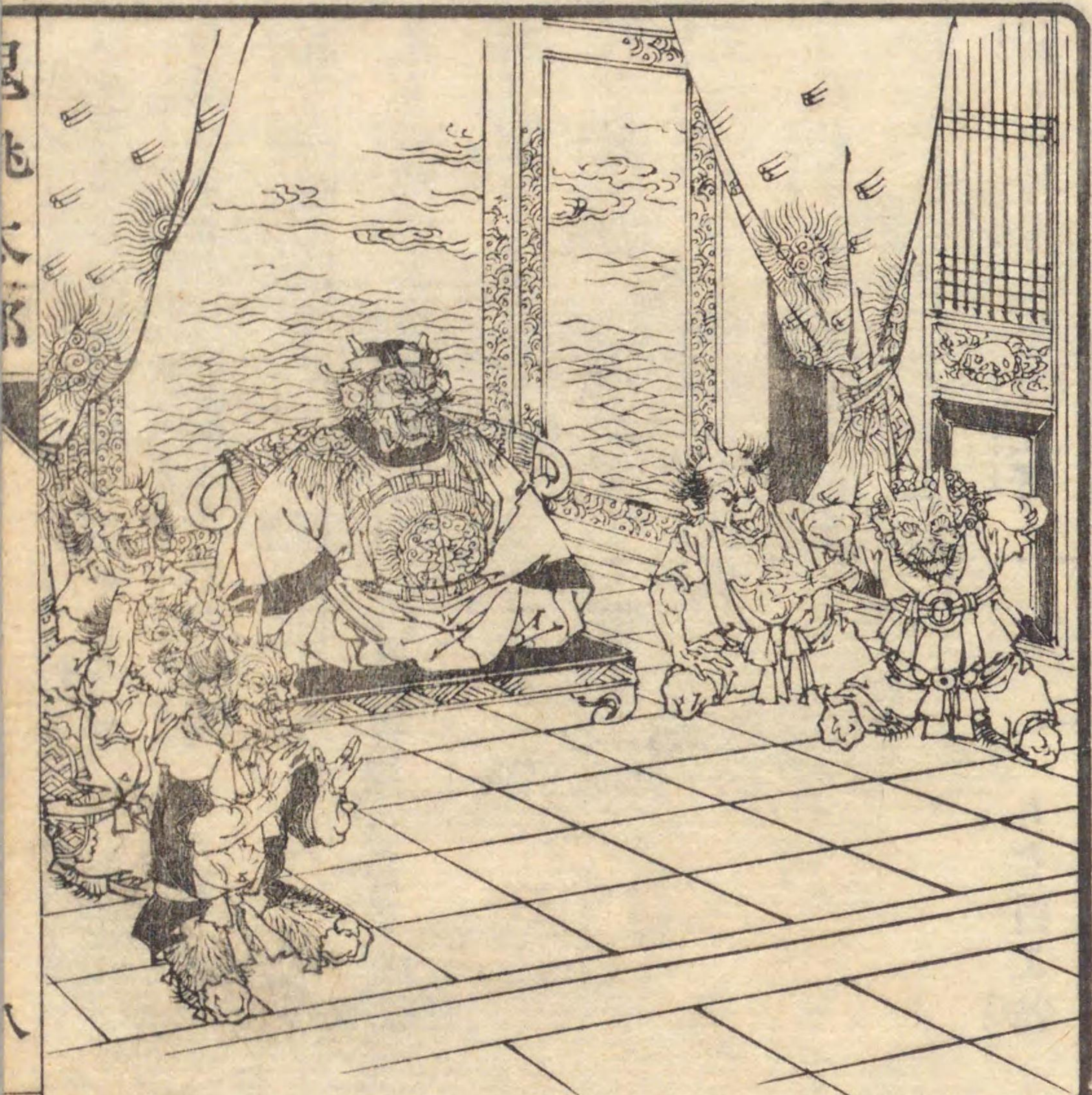
せむ桃太郎

を滅ぼさむ

事疑ひか別

よ取らすべきものありと





勇むで退出けり、
 明日ともありぬま
 む王城より使者向
 ひて、鐵線の囊に人
 間の鬮腰に附焼十
 箇を盛りてかの桃
 太郎が黍團子よ擬
 へ之を兵糧よとて
 賜りぬ、
 徂々て鬼ヶ島の堺

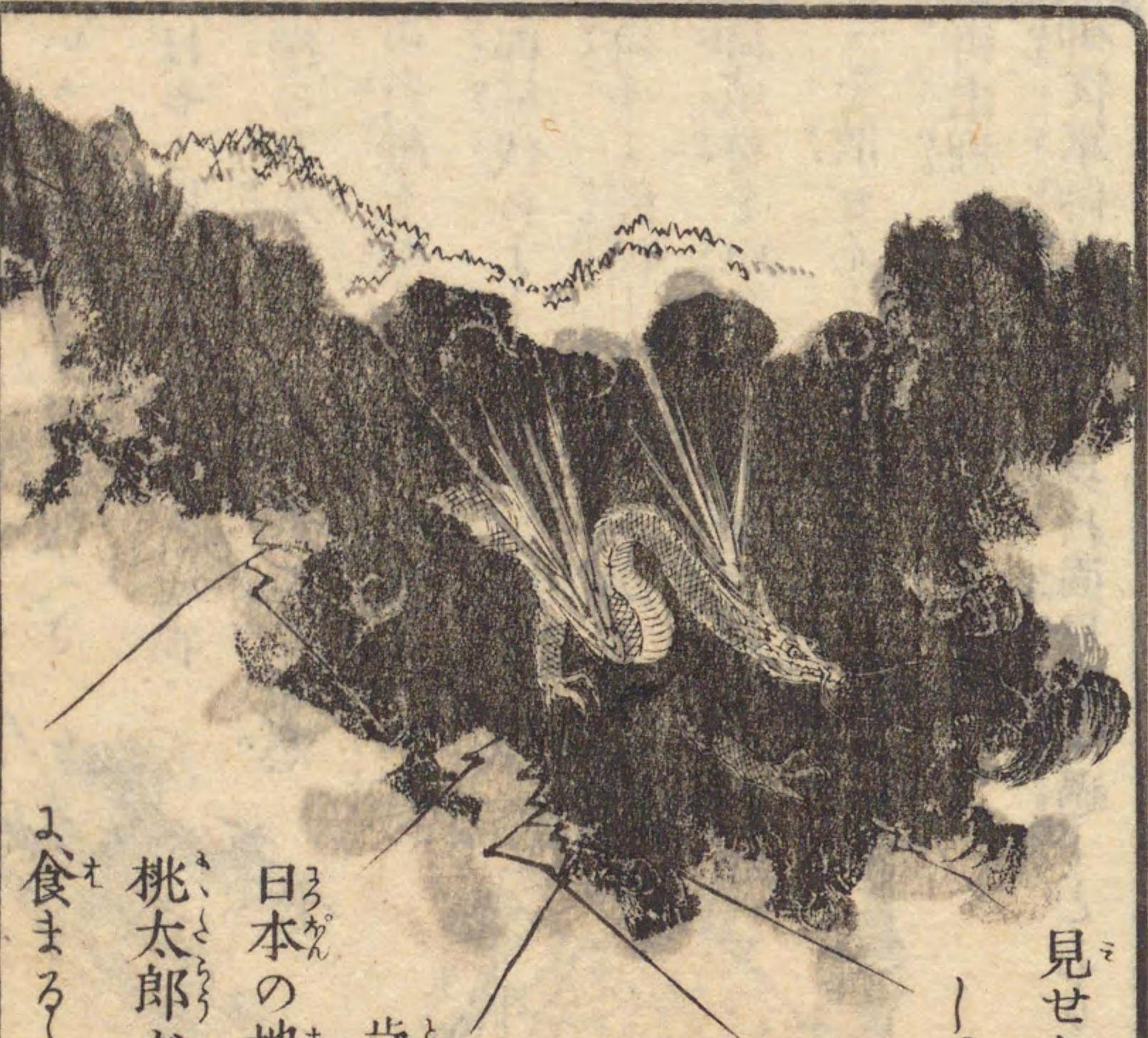


自家穿ぎ
 白
 虎は生皮も
 て造れる禪を解きて
 投出したま
 へむ取て戴き、
 双の角よ引懸け
 手振足拍子
 可笑く外道舞
 といふを舞ひ喜び

来りたる頃魔風遽に颯々と吹荒
 み瀑れごとくに暴雨沃きて天地鳴
 動し坤軸も折るうと想ふばうりたり
 あら心地好き光景やと少
 時立留つて四方を屹と見てあ
 れを魔王嶽れ絶頂に當りて電
 光の閃く裏に金色の毒龍現
 それ此方を目懸けて箭を
 射るごとく飛來るやあ小
 賢き長虫の通力立寄

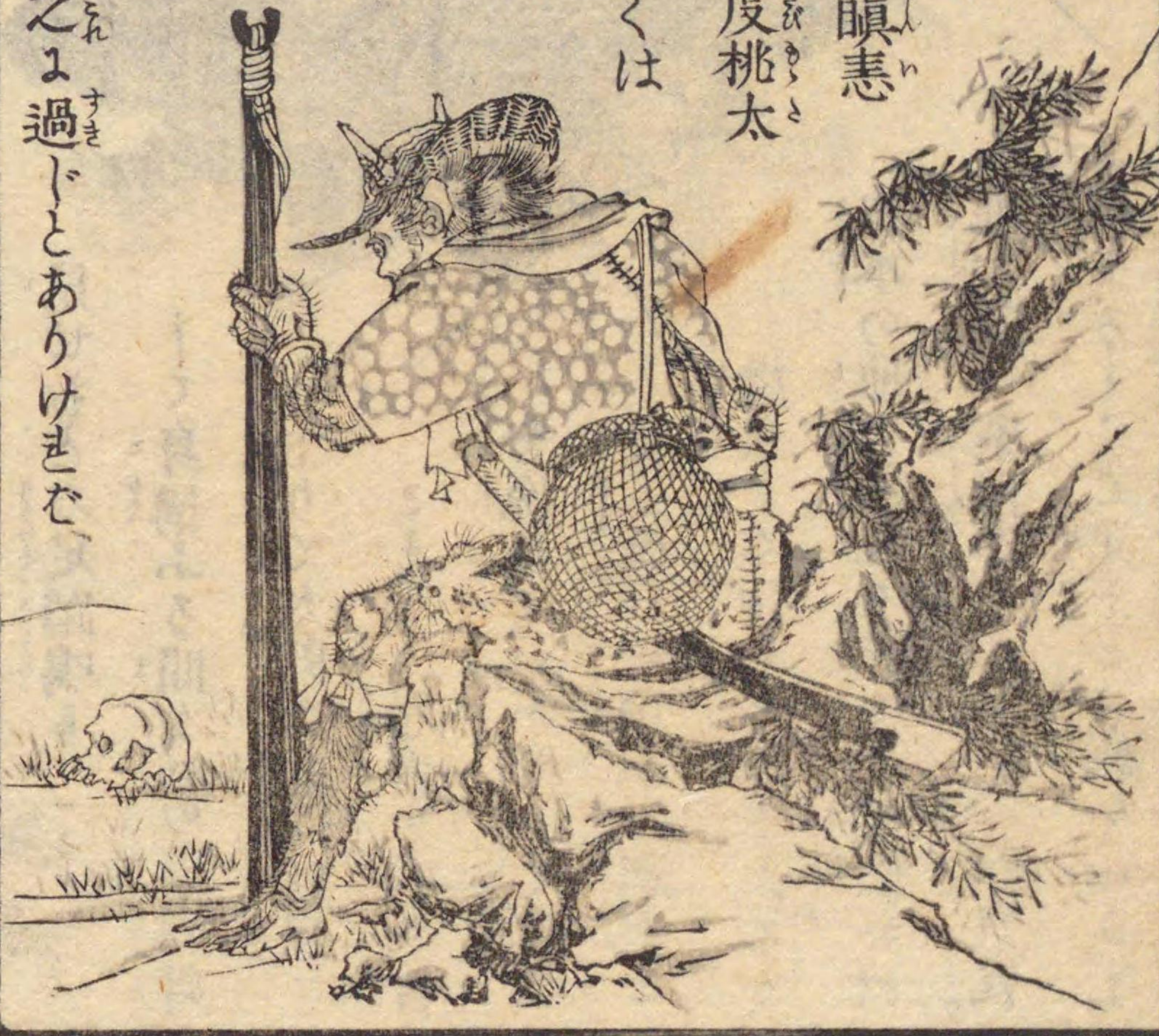


らむ目よ物



見せむと刀足踏鳴ら
 して身構ふる間よかの毒龍舞
 下りて太郎が前よ蜷屈く
 こと十三卷舌を吐き首
 を俛れていふやうに某は
 魔王嶽れ絶頂なる湖水よ
 歳久しく棲める龍王なるが
 日本の地よ罷在る眷族に蛇類か
 桃太郎が家臣なる雉子の一類に爲
 食まるること年々その数を知らず

いづももして此遺恨報へさ
 ばやと思ふ事久しけきと孤
 獨の力及び難く無念を吞で瞋恚
 の炎燄を吐く折うら、將軍此度桃太
 郎征伐のよしを聞及び願そくは
 御手も随従して微力を竭し
 御威勢を以て一族の積る恨
 こを散ぜんとして、これまで
 御出迎ひ仕つりぬ、あそれ
 御從軍御許あらむ身は面目之よ過どとありけきむ



苦桃太郎喜悅淺からば腰ある髑髏一個取ら
 せて主従の契約を結びぬ、
 爾時毒龍はいひけるを往時桃大
 郎を雉子猿犬は三郎党を従が
 へて大勝利を得し例も倣ひ
 將軍も亦好郎党を召こま
 えずや、某が無二の交を結
 べる二頭の勇者ありも
 御意あらむ立所よ
 召寄すべしとの推





輩を却て足手
 纏あれど御身が信トて一
 方の大將ともあすべき器

舉に千羊の皮
 一狐腋も
 如うずの本
 文あまトひ
 ある



量ありと
 せむ早々

その者を召寄せた
 まへといふ、恐多き
 申分よと候へども類
 と友を以て聚まる
 の喻其不肖とい

の龍王あり
 凡俗ふる狐狸れ

輩
 を友と
 せむや
 まづ召寄
 せて見参
 入れむ
 と二振三振尾

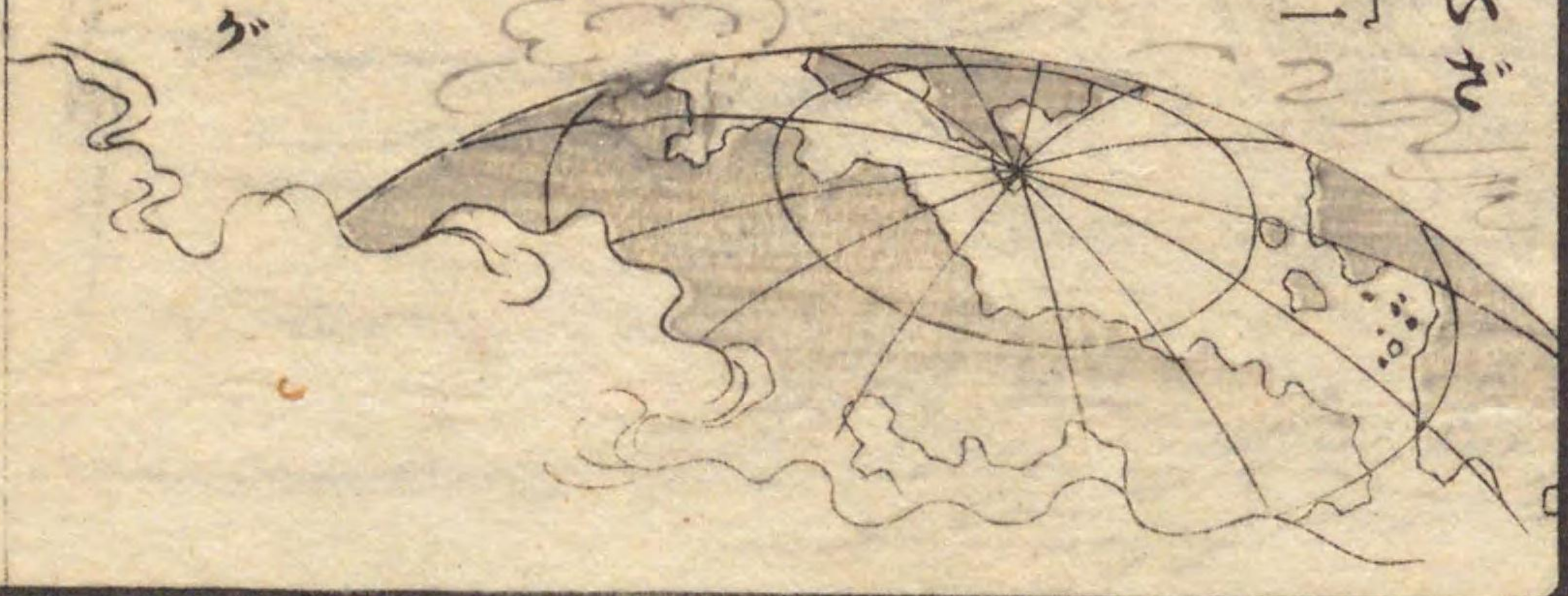


を掉きむ響宛然金鈴のごとし、之を合圖よ
 北方より忽然として白毛朱面の大狒飛來
 り、西方より牛かと思紛ふむうり此狼
 躍出でて、一齊に太郎が前額に
 む苦桃岩角は腰打懸は鴉羽
 扇よて麾ねき實は頼もき器
 量骨格、狒と猿の首領よして狼
 も犬の強敵より之を加ふるよ
 毒龍あまむ桃太郎を一戦よ
 撃破らむ事鐵槌を以て



筒は髑髏を與へいでや出陣と立上まむ毒龍再び策
 を献じていく其は飛行自在の術の候瞬時よして
 日本國に到るべしと虚空に向つて呼吸を吐けむ
 不思議や黄雲遽然蒸して眼前に聚りぬ、主従之よ打
 乗り宙を飛ぶこと西遊記の繪のごとく一晝夜よして
 眼界果しあき大洋の上よぞ來りける、
 苦桃太郎不審を起し我等神通力を以てうく飛行しあか
 り未だ日本の地は着らざる理あり、毒龍爰に鬼ヶ島

土器を摧くかごとし、いざ
 引出物取らせむとまむ二



を去ること若干里を、さん候大約十二万三千四百五十六億七千八

百九十里、わつと其

を行過ぎたり、

戻せくと逆飛雲れ法

を行ふせて無二

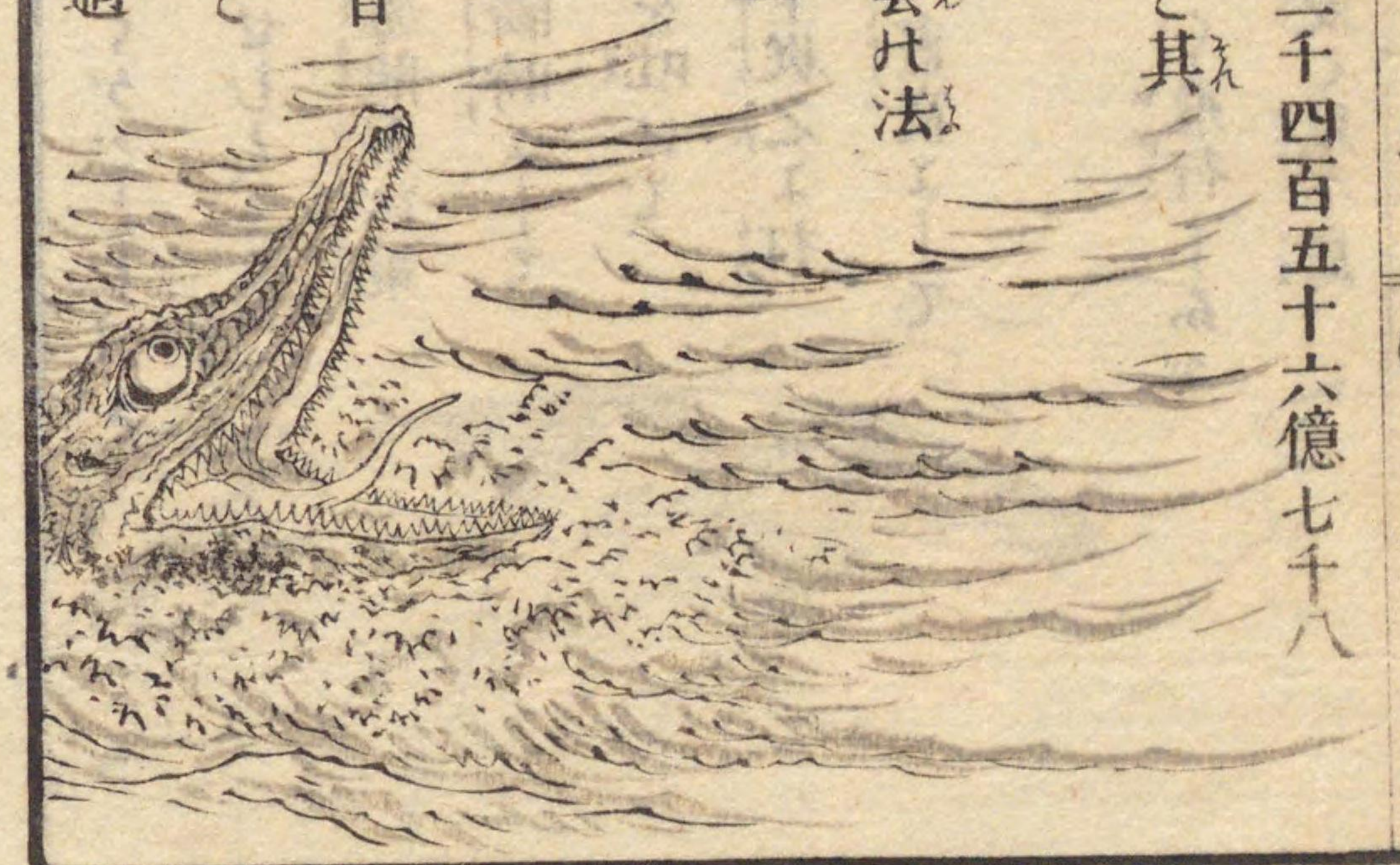
無三よ退るほどよ還るやどよ、

まゝ戻過ぐること九十八万七千六百五

十四億三万二千と一百

里、これでもあらぬと

まゝ出直して行けむ行過



ぎ戻れむ戻過ぎ行つ戻りつ戻りつ行きつ、

左へ翔り右へ走り四面八角縦横無盡よ飛

廻るやどよ流石は毒龍の魔力も限あれ

む次第よ疲き雲を弱りて薄れ行き今を

古綿れごとく此處も寸断れ彼所も寸断

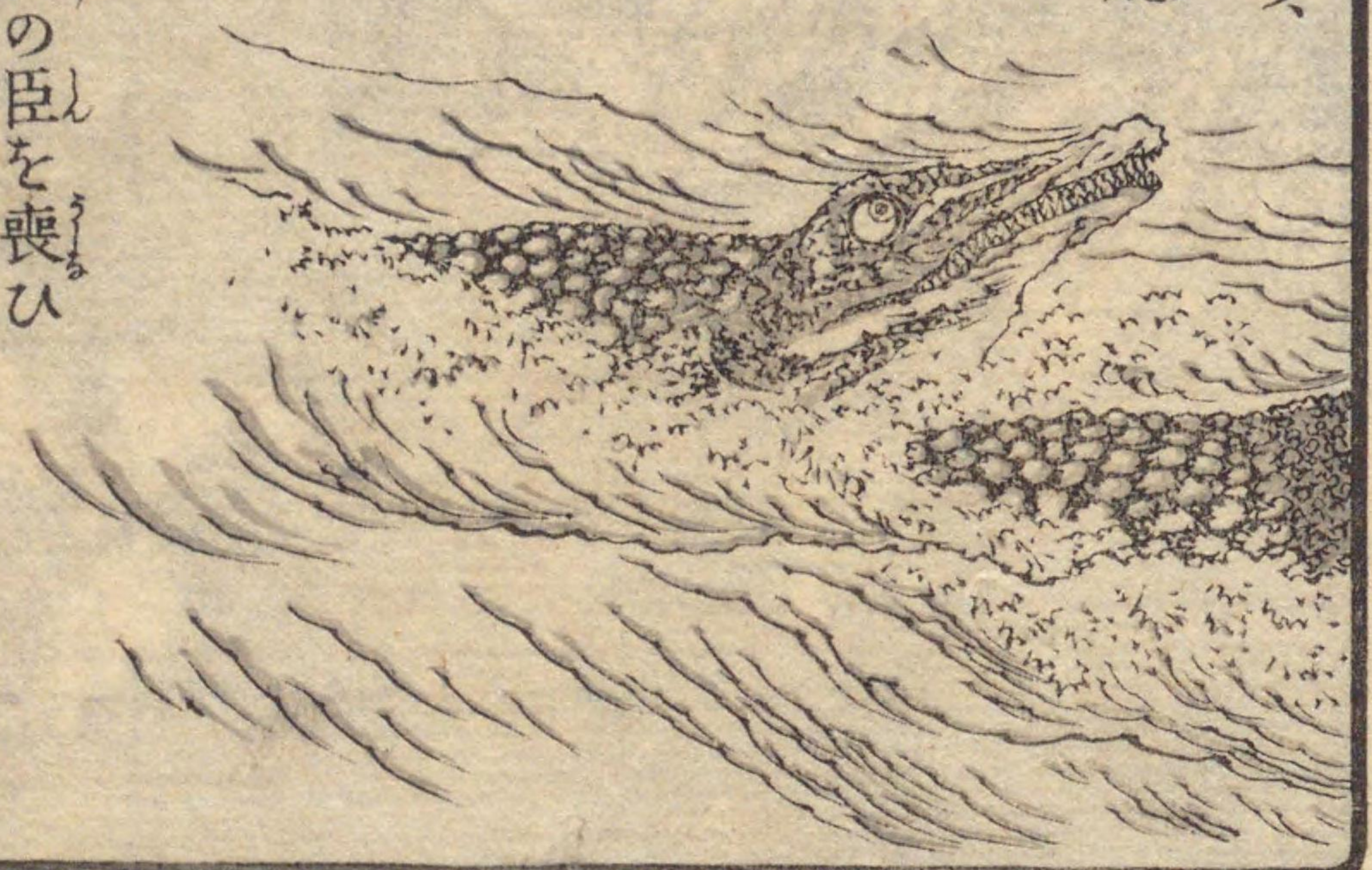
れて放下る空隙より踐外して狒狼を

敢るくも泡立海よ落入りて鱈魚は餌食

とありけらく。

苦桃太郎之を見るより奮然として怒を

爲し、かのれ毒龍爾が魯鈍の故を以て股肱の臣を喪ひ



ころぞ軍陣此門出よ前

徴悪し憎くき奴

と拳を固めて

毒龍の真額

砕けよと乱

打よ撃けれむ

もとより暴氣

の毒龍は發憤の

眼よ朱を濺き金

此鱗を逆てころえ木葉



よ風此吹ごとし

やあ小憎きれのれが大將面

いで龍王が本事を見よと十間

餘り此尾を風車のごとくみ舞

として苦桃太郎を七巻み巻裏め骨も微

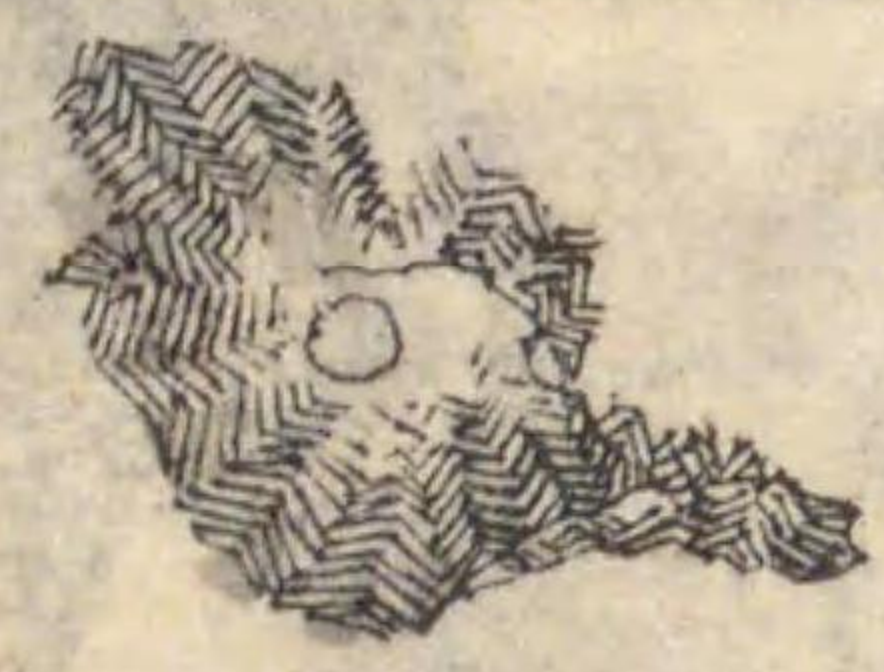
塵と固緊くさむ物々やと苦桃太郎惣身

みうんと力を籠むさむさしもの毒

龍弗つと断れ四段とあつ

て仕るさむ魔力忽ち

解けて雲を吹消すご





とくあくあれば、
何うも以て堪るべ

き苦桃太郎迢

々の虚空より

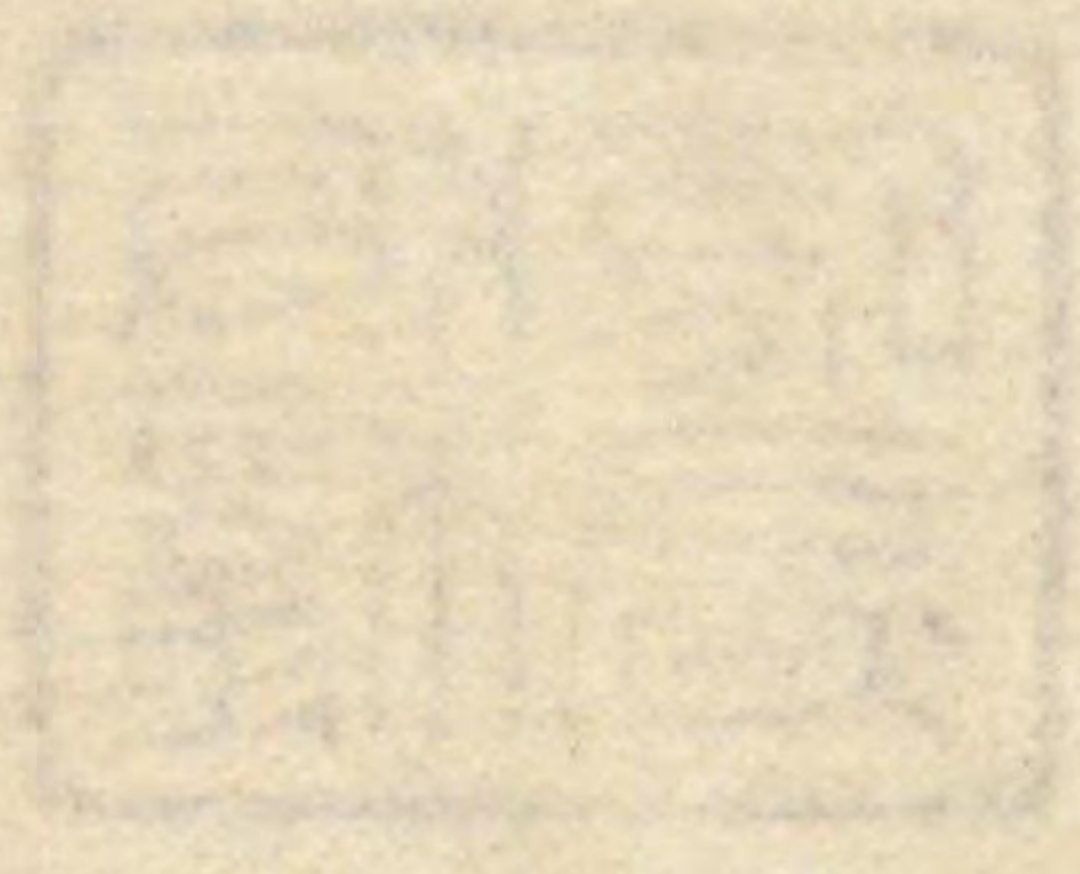
足場を失ひ小石れ

ごとく真一文字よ

舞下りて漫々たる大海へぼろん!

應平

藻高水洗



大徳源水

安扶

明正下十月一日

明治廿四年十月十一日印刷出版 定價金八錢



編輯兼 發行者

印刷者

大橋新太郎

日本橋區本石町三丁目十六番地

安井臺助

下谷區入谷町廿四番地

東京日本橋區本石町三丁目

發兌元

博文館

幸福散史 澁江保君譯述

●再版 密書數個入 全一冊美裝本 正價金拾二錢 郵便稅四錢

●小學講 西洋妖怪奇談 本書は勸善懲惡の目的を以て彼有名なるクリムス獨逸怪談其他種々なる怪談を網羅したるものにして其文章は務めて通俗卑近を主とし兒童に解し易からしめたり且つ其談柄皆新奇なるものなれば小學校生徒諸君が講話の好材料なり請ふ早く一本を購ひ賜へ

流鶯散史 谷口政徳君著

●少年修 生徒の寶 密書數十個入 洋裝美本 正價一冊拾錢 郵便稅二錢

●無邪氣 澹泊たる少年兒童を捉へ來りて微頭徹尾嚴壯霜の如く氷冷鐵の如き忠臣義子談を説く宜かり兒童の面を掩ひ目を閉つるとや本書は能く此弊を極ふ一孝子の談を叙するに當り其間奇事珍談を錯出し兒童をして動物植物物理科衛生等の事を知らしめ而して全篇は貫くに愛國 德行 等の修身談を以てす是恰かも舟中の人兩岸の風色に顧盼俯仰するの際知らずして彼岸に達するは如し流鶯散史の著實に修身の秘訣を得たるもの真に是生徒の實教育家諸君の一大珍本あり

●實地 物理奇觀 密書數十個入 正價一冊拾錢 郵便稅二錢

●本書は尤も簡易に平易に物理學化學上の事を應用したる遊戯を示したるものにして傍ら物理化學に必用たる數學上の遊戯をも掲げたれば幼年諸君一度之を繙かば自から實驗して其快味を悟るの傍ら彼の至難なる理科の學問を容易に知るとを得べし故に各小學校の賞與品として至極恰當の良書あるべきあり

豫 告

●巖谷漣山人著 武内桂舟書 幼年文學 第二編 猿蟹後日譚 全一冊讀切

●巖谷漣山人著 富岡永洗書 幼年文學 第三編 舌切雀後日譚 全一冊讀切

正七位内藤耻叟先生撰 松本楓湖揮毫密書數個入

●大祭祝日義解 全一冊美裝本 正價金拾錢 郵便稅四錢

●本書は内藤耻叟先生が最も鄭重に各大祭日の由來を説き明かされ之に添ゆるに當時我國歴史の考證畫家の泰斗松本楓湖先生の挿畫を以てしたれば各學校の參考書賞與品又は子女ある家への贈り物おどには無二の好書あるべきあり

山田美妙齋君著 渡邊省亭久保田米僊密書入

●新調 青年唱歌集 雅裝仕立美本 正價一冊拾錢 郵便稅二錢

●山田美妙君獨得の韻文を以て青年唱歌集を著はさる別て二卷とす春花秋月、情事、變遷、歴史、清景其壯麗高典ある天馬空を駆けるが如く、優美婉麗ある美人花に響するかの如し囀々として嘆息嬉々として笑ふ加ふるに當今有名畫伯渡邊省亭久保田米僊二君の得意なる泉籟聲等の清景美色を挿入す江山千里月清きの時高欄に憑りて之を誦さば眉昂り神舞ひ美感自から胸中に躍り仙心溢れて至らん

少年文學

每編密書
數個插入
和裝美本
堅牢仕立
每編記事
讀切完結

正價 ●一冊拾二錢○六冊前金六拾七錢○十二冊前金
●壹圓二拾五錢○郵便稅一冊四錢宛 ●注文前金

本日書目次

- 第壹編 **おがね丸** 巖谷 漣 著 武内 桂舟 畫
- 第貳編 **二人むく助** 尾崎 紅葉 著 武内 桂舟 畫
- 第參編 **今辨慶** 江見 水蔭 著 武内 桂舟 畫
- 第肆編 **維新三傑** 北村 紫山 著 石版 肖像 入
- 第伍編 **雨の日ぐらし** 山田 美妙 著 富岡 永洗 畫
- 第陸編 **寶の山** 川上 眉山 著 武内 桂舟 畫
- 第柒編 **二宮尊徳翁** 幸田 露伴 著 小林 永興 畫
- 第捌編 **親の恩** 宮崎 三味 著 小林 永興 畫
- 第玖編 **姉と弟** 嗟 峨のや 著 おひる 著

第一高等中學校教授小中村義象
直文 兩先生 著

家庭歴史讀本

松本 楓湖
揮毫彩色
密書插入
和裝美本
每編記事
讀切完結

正價 ●一冊拾二錢○六冊前金六拾七錢○十二冊前金
●一圓二拾五錢○郵便稅一冊四錢 ●御注文前金

- 第壹編 目次
- 第貳編 **能褒野の露** 日本武尊 著 日本武尊 畫
- 第參編 **如意輪堂** 楠正行 著 楠正行 畫
- 第肆編 **小松の雪** 平重盛 著 平重盛 畫
- 第伍編 **鳥羽戀塚** 前事蹟 鶴ヶ岡 靜 著
- 第陸編 **青葉の笛** 平敦盛 著 平敦盛 畫
- 第柒編 **森のあらし** 森蘭丸 著 森蘭丸 畫

通俗教育全書

第一編以下第廿二編迄既刻取揃御注文ニ應ズ

全部廿四冊總數四千五百頁以上
每月一回發兌 廿四年十二月迄ニ全部完成ス
正價 一冊金拾二錢 ●六冊前金六拾七錢 ●十二冊前金一圓
廿五錢 ●廿四冊前金二圓四十錢 ●郵便稅一冊一錢五厘
●第廿二編 小心理物學ハ廿四年十月廿日出版

總科目

- 第壹編 家庭教育 幼稚園
- 第貳編 家庭教育 尋常小學校
- 第參編 家庭教育 高等小學校
- 第肆編 家庭教育 女學校
- 第伍編 實用教育 商業學校
- 第陸編 實用教育 農工業學校
- 第柒編 應用教育 日本歷史
- 第捌編 應用教育 支那歷史
- 第玖編 應用教育 萬國小歷史
- 第拾編 應用教育 日本小歷史
- 第拾壹編 應用教育 萬國小地理誌
- 第拾貳編 應用教育 小地理誌
- 第拾參編 應用教育 小物理書

谷口 政德 著
須永金三郎 著
谷口 政德 著

- 第拾參編
- 第拾肆編
- 第拾伍編
- 第拾陸編
- 第拾柒編
- 第拾捌編
- 第拾玖編
- 第貳拾編
- 第貳拾壹編
- 第貳拾貳編
- 第貳拾參編
- 第貳拾肆編

- 初等教育 小植物學 谷口 政德 著
- 初等教育 小化學 谷口 政德 著
- 初等教育 小修身 大熊 權平 著
- 初等教育 小金石 素水 眞龍 著
- 初等教育 小地文 須永 友四郎 著
- 初等教育 小近古史 谷口 政德 著
- 初等教育 小文新 鈴木 倉之助 著
- 初等教育 小論物 中村 篤三郎 著
- 初等教育 小論理 谷口 政德 著
- 初等教育 小倫理 三田 周一郎 著
- 初等教育 小天文 瀧 江 保 著

